

“集団創造的発想法”を導入し全国地区長会議開催

VISION2020 勝利への道を模索し白熱議論

8月31日から9月1日までの2日間、会長団を含む本部局長と全国の地区長、そして統一運動諸団体のリーダーなど合計60人余りが参加し、全国地区長会議が一心特別教育院（千葉県浦安市）で開催されました。この会議には、2020年までの後半期の歩みにおけるビジョンを共有し、勝利のために最適な実行法案を模索する「ブレインストーミング」が導入され、密度の濃い話し合いが行われました。

家庭連合の新しい組織文化を創建

開会の辞で、^{ソンヨンチョン}宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長は「今回の地区長会議で一番優先され、一番たくさんの時間を割いて討論するテーマは、20万人の核心会員と80万人の賛同会員の確保に関するアプローチについてです。これは、日本の家庭連合の未来と直結する核心的な内容となるでしょう。この地区長会議では、皆さんと共に行うことができるすべてのアプローチを探していこうと思います。ですから私は、今までの全ての思考を新しくする『ブレインストーミング』を導入した会議を行おうと思います」と説明。

その上で、「ブレインストーミングとは、『集団創造的発想法』として集団に所属した人たちが自発的かつ自由に提示したアイデアのリストを通して、特定の問題に対する回答を探し出そうとすることです。8月26日に家庭連合の名称変更1周年記念式でもお話ししたように、統一原理でいうところの『人間の責任分担』を重荷のように感じるのではなく、『人間にだけくださった神様の創造性』であると考えを転換してみました。ですからこの創造性を集団で引き出す一番良い方法であるブレインストーミングを行おうというのです」と力強く語りました。

続いて宋総会長は、ブレインストーミングで効果的な発想をするため、『判断の保留』と『可能な限りたくさんの発想』を引き出す2つの前提条件について触れながら、4つのルールを説明しました。

その4つのルールとは、①量にフォーカスを合わせる②批判と非難を控える③変わったアイデアを歓迎する④アイデアの組合せと改善をする——です。

最後に、宋総会長は「コア20万人と賛同会員80万人を勝利する道は、決して簡単な道ではありません



ん。しかしそれは、これまでなかった日本家庭連合の大躍進の道となるでしょう。一度も実現していない最も困難なことであるにも関わらず、今までの思考回路でどのようにしたら勝利することができるでしょうか。万が一いまでも安易に掛け算をしたり引き算をするような考えで20万人と80万人を勝利できているとしたら、私はどんな犠牲を払ってもその状況を打開するつもりです」と語りました。

引き続き、矢野治佳伝道教育局長と田中富広副会長（青年学生局長兼任）が基本情報を発表した後、参加者たちを6つのグループに分け、熱気あふれる意見交換が始まりました。

宋総会長を含む会長団もグループの中に混ざり、参加者たちと同様に意見を出し、ブレインストーミングを実践しました。

1日目の前半は、各グループが20万人の核心会員

の確保に対する阻害要因について徹底的に分析。後半の時間では、その阻害要因に対する解決法を見出すための議論を行いました。

2日目は、二世圏の祝福勝利をテーマに、同じ方式で話し合いが進められました。

会議の最後に、徳野会長は「天一国時代にふさわしい、新しい組織文化の創建のために力強く前進しましょう!」と強調。総括では、宋総会長が「死にゆく子女たちを生かすためにあらゆる方法を探し出す父母の心情を抱いて、2020年までの残り3年半を歩んでゆきましょう」と呼び掛けました。

全国の地区でもブレインストーミングを実施

全国地区長会議の内容と方法を土台にして、全国の各地区でも責任者と婦人代表などが参加して、ブレインストーミングを導入した会議が実施されまし

た。

第12地区（北九州）は9月3日、福岡家庭教会に地区全体の責任者が集まって会議を実施。第2地区（東北）は同6日、9月度の出発式の後、教区ごとに牧会者と婦人代表に分かれてブレインストーミングを行い、その結果を発表する時間を持ちました。

第14地区（東関東）では、全ての牧会者と婦人代表に加え、教区の伝道教育部長や成和青年部長などが参加する中で討論を実施。その他の地区でも同様の会議が行われました。

ブレインストーミングの参加者たちは、自由に創造性あふれる討論と『集団創造的発想法』を会議に導入した家庭連合こそが、真の疎通と共有の道を導いていくことができ、革新的な方法で必ずVISION2020を勝利することができるとの確信を深め、新しい出発をしました。

“私ではなく真の父母様が日本の食口たちと会うために巡回されたのです”

宋龍天総会長ご夫妻、日本全教会の巡回完了



- ①千葉家庭教会で開かれた「日本全教会巡回完了祝勝会」(8月12日)
- ②最後の巡回先となった南千葉・鴨川家庭教会(同)
- ③メッセージを語る宋総会長(2015年1月18日、西東京・杉並家庭教会)
- ④第1回目の訪問先となった佐賀家庭教会(13年2月3日)
- ⑤第1地区出発式に出席のため北海道・札幌を訪問(13年3月10日)
- ⑥福島家庭教会で(14年7月9日)
- ⑦大阪聖地での特別祈祷会(14年7月20日)
- ⑧新潟教区の天宙成祝式で(14年11月9日)
- ⑨在日韓国人特別礼拝で(16年7月9日、千葉・市原)

8月12日、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長ご夫妻は南千葉教区鴨川家庭教会を訪問し、全国291教会、3年7カ月間に及んだ日本巡回を締めくくりました。その後、千葉家庭教会で「日本全教会巡回完了祝勝会」が行われ、宋総会長ご夫妻の日本巡回を振り返る時間となりました。



宋総会長が3年7カ月の間に実際に訪問した教会の数は、延べ400～500に達します。

2013年2月、宋総会長が日本に赴任して最初に訪れたのが、国内で最大規模の教会をもつ佐賀家庭教会でした。そして日本巡回の締めくくりが、最も小さい教会の一つである鴨川家庭教会だったのはとても象徴的です。

宋総会長には「どんなに小さい教会であっても訪ねて行って、真の父母様の代わりに愛を伝えてほしい」という真のお母様の願いを成し遂げたいという強い動機がありました。

中には所属教会員が10～20人の教会や、「会長団

の訪問は教会を創立して初」という教会も一つや二つではありません。しかし1000人規模の大会でも、10人程度の小さな集まりでも、宋総会長は時間の許すギリギリまで食口たちのために全身全霊で愛を投入していきました。

2016年に入った時点で、未訪問の教会はおよそ100。真のお父様の聖和4周年記念行事が行われる8月までには全教会を巡回するのを目指して出発しましたが、現実には困難を極めました。

というのも、教区に1、2カ所残っている未訪問の教会のほとんどが、各教区の中でも交通の便の良くない所ばかり。通常でもいったん巡回に出れば、3～4日間は朝から夜まで連日、3、4カ所の教会訪問と移動が続きますが、あるときは1日に複数の地区を飛び回り、数カ所の教会を巡回するという強行軍も行いました。

責任者から変わらなければならない——。宋総会長は2013年に総会長就任以降、一貫してそう強調してきましたが、その先頭に立ってきたのが宋総会長自身でした。日本の全教会の巡回完了の背後には、宋総会長の強い信念と使命感があったのです。

孝情をもって世の光となり、真の父母様を証しよう

イヘオク
李海玉総会長夫人は、8月9日に茨城教区日立家庭教会、11日に鹿島家庭教会を訪問。宋龍天総会長は同11日、南千葉教区の香取、両総両家庭教会を訪れました。

翌12日、宋龍天総会長ご夫妻は日本教会巡回の最後となる南千葉教区鴨川家庭教会の訪問を終え、午後に約100人の食口が集まり、千葉家庭教会で「日本全教会巡回完了祝勝会」が行われました。

祝勝会では、宋総会長ご夫妻の3年7カ月間にわたる日本巡回を振り返る映像を上映。続いて李海玉夫人が、巡回をしながら感じた食口たちの事情を真のお母様に報告したところ、お母様が日本食口に多くの精誠と愛を投入してくださったことを涙ながらに証しました。

最後に、宋龍天総会長は「日本全教会の巡回は、私がしたのではなく真の父母様が日本の全食口と会うために巡回されたのです。私たちが天に対する孝情をもって世の光となり、ご父母様を世界に証する者となりましょう」と力強く語りました。

宋総会長ご夫妻の日本巡回に随行して

総合企画局長 権相基

日本巡回に随行しながら一貫して感じていたことは、宋総会長ご夫妻は真の父母様の代身として巡回されているということでした。

宋総会長は、お父様の目で食口たちを見つめ、お母様の心情で食口たち一人ひとりの手を握り、一家庭一家庭と写真を撮られてきたのです。

一方、李海玉夫人は、教会において疎外感を感じたり、注目を受けることのないメンバーたちと会うことを意識されてきました。国際家庭を集めて話を聞いたり、講話をされる一方で、病気の食口に会って祈祷をされました。

また、未来を担う二世や青年たちに会い、彼らの話を聞いて希望を与えられました。時には、歌を披露してくれた二世がいたら、「ハンバーガーでも買って食べなさい」とおこずかいを渡されることもあり。そうした姿を見ながら、真のお母様の心情を食口たちに伝えるために教会を訪問されたのだと感じることが多くありました。

徳野会長が大分、宮崎教区を巡回

“氏族伝道は勇気と度胸”



①メッセージを語る徳野会長 ②大分教区の「天一国四大聖物伝授式」で
③美しい歌声を披露した大分ジュニア合唱団 ④宮崎教区特別礼拝の参加者

台風12号が9月3日から4日にかけて南九州に接近する中、徳野英治会長を迎えての「天一国四大聖物伝授式」が9月3日に大分教区で、「特別礼拝」が9月4日宮崎教区で行われました。両日とも大きな天候の崩れはなく、天に守られる中、参加者一同、決意を新たに出発しました。

大分教区で「天一国四大聖物伝授式」

9月3日に別府市内の会場で行われた「天一国四大聖物伝授式」は、台風接近にも関わらず、雨も降らず天候に恵まれ、会場は450人の参加者でいっぱいになりました。

永井義行第13地区長の挨拶の後、徳野会長から四大聖物が各家庭に直接伝授され、徳野会長は、参加した276組一人ひとりと握手をし、家族ごとに写真を撮りました。

伝授式では、余分に準備していた聖物の数が、過不足なく伝授対象者の数とぴったり一致するという天の役事も起こりました。

宮崎教区で特別礼拝

宮崎家庭教会で9月4日に行われた「神氏族メシヤ勝利と救国救世基盤造成の為の第6次40日特別精誠路程宮崎教区特別礼拝」は、多少の風雨あったものの、導かれるような天候で、200人余りの食口・祝福家庭が集い、徳野会長と共に天の前に礼拝を捧げる貴い時間となりました。

徳野会長は説教で、神氏族メシヤとして堂々と御父母様を証しし、教会をはっきりと伝えている自身の歩みを紹介しながら、「家族の代表、氏族の代表として私を召してくれたのに恐れては、神様の信頼と期待を裏切ることになります。勇気と度胸が必要です。氏族、知人・友人の伝道には、波風を立てることを恐れてはなりません」「氏族に対する真の愛で、氏族に救いの手を差し伸べるときです」と強調。その上で、①天法3カ条に引っかかってはならない②理想世界は理想家庭から③神氏族メシヤ使命完遂——の3点を訴え、「本格的に氏族伝道を進めましょう」と全体を鼓舞しました。

“神氏族メシヤ活動は福の玉手箱。やればやるほど希望”

各地で広がる「神氏族メシヤ認定家庭教会」

神氏族メシヤ活動を具体的に推進する「公認」及び「認定」家庭教会の認定式が本部及び各地区で始まりました。今回は本部と第16地区で行われた認定式の様子をお伝えします。

3家庭が「神氏族メシヤ特別公認家庭教会」に認定

東京・渋谷の松濤本部礼拝堂で9月8日、「神氏族メシヤ特別公認家庭教会認定式」が行われ、本部が特別に認定した「小山田家庭教会」（12双）、「古田家庭教会」（777双）、「周藤家庭教会」（12双）の3家庭に徳野英治会長から認定証が授与されました。

メッセージの中で徳野会長は、「今後多くの公認（認定）家庭教会が認定されていきますが、『特別』と付くのは本日認定される3家庭だけです」と説明。「きょう認定される3家庭がスタンダードになって、私たちを引っ張って頂き、私たちも3家庭に続く出発をしていく」ことが重要だと訴え、「今日はそのための結団式です」と述べました。

その後、各家庭から挨拶があり、小山田秀生先生は「神氏族メシヤ活動は福の玉手箱。ここにすべてがあり、行えば行うほど希望がある」と強調しました。古田恭子先生は「神氏族メシヤ活動の勝利とは、一族の中に、恨み・悲しみ・怒りがなくなること」との言葉を紹介。周藤健先生は、真のお父様から「自分の血統圏にサタンの血筋を残すな」との言葉を掛けられたことを伝えました。

第16地区で「神氏族メシヤ家庭 夫婦礼拝及び家庭教会認定式」

9月4日、東神戸家庭教会で「第16地区神氏族メシヤ家庭 夫婦礼拝及び家庭教会認定式」が陸奥地区長と本部の山中智博・神氏族メシヤ推進部次長を迎えて行われました。

今回で2回目となる「神氏族メシヤ家庭 夫婦礼拝」は、各教区から夫婦50組が参加。夫婦が力を合わせ地域で神氏族メシヤ活動を行っている家庭が交流し、成功談、失敗談など様々な内容を共有する復興の場になっています。

第1部の「夫婦礼拝」では、陸地区長が説教で「私たちの内外の基準を高めながら、天から信頼され、家族から信頼されなければなりません。夫婦一体となって邁進しましょう」と述べ、参加者を激励。参加者の中には、陸地区長の説教内容をすでに夢で知らされていた食口もいて、参加者は天が祝福し導いておられることを実感しました。

第2部の「家庭教会認定式」では、24家庭が「地区認定神氏族メシヤ家庭教会」として認定。今回その内の21家庭が、陸地区長から「地区認定神氏族メシヤ家庭教会任命証」「家庭教会看板」を授与されました。

第3部は、今回任命を受けた家庭ごとに地域での神氏族メシヤ活動の報告会を行いました。

第16地区では、2014年6月の自叙伝書写伝道出発決断式を機に、自叙伝書写家庭集会を地区伝道教育の入り口とするプロジェクトをスタート。地区一丸となって家庭単位の伝道教育体制を地域基盤に展開してきました。そのような取り組みを土台に、神氏族メシヤ活動が実を結び始めていることを感じさせる場となりました。



①特別公認家庭教会の認定を受けた小山田先生（右から2人目）、古田先生（左から3人目）、周藤先生（同2人目） ②松濤本部で行われた「特別公認家庭教会認定式」 ③第16地区で「神氏族メシヤ家庭教会」として認定された21家庭

「関西地方韓国人食口特別集会」を開催

李海玉夫人が慰労のメッセージ



- ①特別集会に参加した韓国人食口たち
- ②心情的なメッセージを語る李海玉夫人
- ③参加者を抱擁する李海玉夫人
- ④会場を盛り上げたエンターテイメント

8月27日、李海玉・全国祝福家庭総連合会総会長夫人をお迎えし、大阪家庭教会で「関西地方韓国人食口特別集会」が行われ、第9（関西）、第15（東関西）、第16（東中国）の各地区から韓国人食口約140人が参加しました。

集会は午前10時半、姜京熙・全国韓国婦人会長の司会でスタート。聖歌讃美や代表報告祈祷などの後、家庭連合への名称変更1周年を記念してケーキカットが行われました。

朱鎮台第9地区長の歓迎の挨拶と映像上映に続き、李海玉夫人が登壇。参加者一人ひとりに目を合わせながら「お会いできて嬉しいです。真の父母様がいつも待っておられました」と語り、講話を始めました。

李海玉夫人は「皆さんが今まで生活しながら受けた傷を根本的に癒すのは、親にしか出来ません。親を見失ったら子供はあちこち行かず、その場でじっと待っていたら必ず親が探しに来るのです」と説明。その上で、「色んな事情で礼拝に来られない時には、是非別の日にでも教会に寄って天に報告して下さい」と語りました。

日常生活の様々なことがらを題材に李海玉夫人が語るエピソードの一つひとつに聴く者すべてが強く共感。ま

た、時におかしく時に涙を誘うメッセージに皆が感動を受けました。

昼食会で行われたエンターテイメントでは、韓国人中心の舞踊歌謡団「天芸団」の「釜山港に帰れ」で開幕しました。各地区の婦人会メンバーによる歌や踊りでは、食口たちが楽しく歌い踊る輪の中に李海玉夫人も加わるシーンもありました。

午後のプログラムでは、朱鎮台地区長が二世祝福について講義を行い、参加者の関心がある部分を分かりやすく解説。また、姜京熙会長が二世祝福の成功事例を紹介しました。

豪華景品が準備された抽選会および交流会で大いに盛り上がった後、李海玉夫人が壮年と一人ずつ手をとって写真撮影。「真の父母様の手をちゃんと握って離さないでくれ」とエールを送っているような場面でした。

今回の特別集会には、最近教会から足が遠のいていた約40人も参加し、家庭連合時代に相応しい韓国人の情の文化を味わう時間を共有。20年ぶりに参加したある食口は、涙を流しながら悔い改めて再出発の決意を述べるなど、参加者たちは生きて働かれる天の役事を実感しました。

台風10号による豪雨被災地でボランティア

岩手教区の有志24人が片付け作業



8月末、観測史上初めて東北の太平洋側に上陸した台風10号により、岩手県内に多くの被害がもたらされました。それを受け、姜政求岩手教区長の「被災地の方々の力になって差し上げたい」という熱い思いと、真の愛を实践する奉仕活動を神氏族メシヤによる救国救世運動の出発点にしようと、岩手県久慈、宮古両市でボランティア活動を行うことになりました。

9月4日午前5時半、激励のため駆け付けた食口を含め約40人が盛岡家庭教会に集まり、出発式を行いました。姜教区長は「ボランティア活動を通して家庭連合を証しすることは、真の父母様を愛し誇り証してゆくための早道です。これから社会に向けて家庭連合の活動を積極的に展開していきましょう」と参加者たちを激励しました。

姜教区長を含む24人の一行は、盛岡家庭教会から二手に分かれて出発。被害の大きかった久慈市にはワゴン車2台で16人、宮古市にはワゴン車1台8人が向かいました。

両市とも片道2時間ほどで行ける地域ですが、台風による水害や土砂災害によって各地で道路が寸断。う回路を回って普段の2倍近くの時間をかけて現地に到着しました。

久慈市のボランティアセンターでは、事前に「宗教法人 世界平和統一家庭連合盛岡家庭教会」として登録をしていたため、受付はスムーズに終了。16人参加とい

うことで市担当者にも期待されていたようで、3カ所の現場が与えられました。

メンバーが現場の家屋に到着して最初に目に入ったのが“泥”でした。家の中に入り込んだ大量の泥を前にして、どこから手を付けたらいいのかわからないような状況の中、住人の方々が黙々と家の中を片付けている姿がありました。

姜教区長自らが陣頭指揮を執り、作業はスムーズに進みました。作業を終えて帰るとき、住人の方は「本当にありがとうございました」と泣いて感謝されていました。

被災者はいつになるかわからない復興に向けた歩みが始まったばかりです。メンバーたちは被災者に寄り添って支援していく必要性を痛感し、今後も継続してボランティア活動を行っていくことを決意しました。

ボランティアセンターに戻って活動報告書を提出し、集合写真を撮ろうとしたときのこと。久慈市役所の担当者が飛んできて、シャッターを切ってくれる場面がありました。その担当者は、10人を超える団体でのボランティア参加がほとんどないため、盛岡家庭教会からの参加に深い感謝の気持ちを表し、一行を見送ってくれました。また「市の広報に載せたい」とその様子を市の職員が写真に収めていました。

家庭連合の名を出して堂々と父母様を誇って参加した今回の活動を通して、参加者たちは多くの出会いと貴い経験を得る機会となりました。

“孝情”の文化創造に挑んだ 40 日間

聖和 4 周年聖和祝祭、日本文化公演の舞台裏

8 月 19 日に挙行された真のお父様の聖和 4 周年聖和祝祭は、第 1 部の記念式に続き、第 2 部として「文化競演」が開催され、韓日米の 3 カ国のほか、アジアや南米など 5 大陸の代表が、精誠を尽くして準備した歌や演奏、舞踊などで会場を魅了しました。日本からは南東京教区の成和学生・大学生を中心に感動的なパフォーマンスを披露。“孝”の心情世界を体恤して第 1 位の「大賞」に輝きました。ここでは、日本チームの責任者の報告と参加者の感想を紹介します。



真の父母様の愛と恩恵を実感した準備期間

本部広報局文化部長 猪熊広己

今回の公演を準備するに当たり、真のお母様の心情文化芸術に対する強い想いを受け、これまで以上に芸術性の高いパフォーマンスが求められました。

祝福二世の合唱団や聖歌隊、中和文化祭等で高く評価されたエンターテインメントの中から、最終的に日本代表としてお捧げする演目として、南東京教区の成和学生・大学生を中心とした 120 人のダンスと、21 修「トップガンユース（HJ 天苑特別修練会）」の 350 人の合唱、プロで活動しているシンガーソングライターや二世青年ダンサーとのコラボレーションを企画しました。

本番まで 40 日余りの準備期間で、メンバー達は汗と涙の精誠を積み、日々レッスンに励みました。

ダンスに関しては青年ダンサーのサポートを受けることで、バリエーション豊かな振り付けを取り入れ、よりインパクトの増した表現力で演技が出来るようになりました。

合唱においては、メインの 120 人の学生達と 21 修



①「大賞」に輝いた南東京教区成和学生部のメンバー
②一糸乱れぬワシップダンス
③会場を魅了した日本チームのパフォーマンス

の 350 人が本番直前まで一緒に練習が出来ない状況の中、日本ではダンス練習の合間に合唱指導を繰り返し、清平の 21 修メンバーは、現地の声楽の先生に指導を受けながら本番に備えました。

南東京成和学生の合唱は、合唱コンクールに参加したことのないメンバーが多かったり、ここ数年本格的な合唱の取り組みが出来なかったこともあり、最初は基礎練習もままならない厳しい状況でした。

しかし、天に向けて「お捧げしたい!」というメンバーの動機と心情が徐々に確立され、練習をすればするほど声が出るようになりました。二世達は、どの様な分野でも物事を吸収する能力に長けているので、ダンスにおいても合唱においても、どんどん

成長していきました。

ただ日本での練習期間においては、個々の学校のスケジュールや部活動等のため全員揃っての練習が出来ずじまい。渡韓してからの全体練習に期待し、その日に集まったメンバー毎にテクニックを固めていくスタンスで進めていきました。

日本がお捧げした合唱曲「孝心」は真のお父様の神様に対する「孝」の心情を表現。同じく孝進様の「永遠に愛そう、春の雨のように」は、孝進様のお父様に対する「孝」の心情を綴った作品です。いかにして、その心情世界を相続し、歌やダンスを通して表現していくかを尋ね求めながら練習していきました。

日本チームは、渡韓前日までの練習で基本的な形をしっかりと決めて、本番 2 日前に渡韓。ようやく韓国で全員揃っての練習が始まりました。

現地では、環境の変化や心情が不安定になって体調を壊す学生や、本番直前に立ち上がれなくなってしまふメンバーもいましたが、最終的には誰一人として辞退するメンバーはなく、それまでの精誠が実り、最高の芸術作品としてお捧げすることが出来ました。

公演当日、日本チームは見事「大賞」という思いもよらないご褒美を賜ることが出来ました。振り返ればあつという間でしたが、僅か 40 日の準備期間の中で天が与えてくださったすべての内容において、真の父母様の限りない愛と恩恵を感じることができた期間でした。

“私の” 真の父母様と出会った子供達

南東京教区渋谷教会副教会長（教区成和学生部長） 横川洋介

「聖和 4 周年聖和祝祭」の大陸別文化競演に日本代表として参加させていただく中で、40 日の準備期間をいただきました。真のお父様が聖和されて 4 年という歳月が過ぎましたが、南東京教区に限らず、二世三世の中高生の多くは、小学生期にお父様を霊界に送り、真の父母様が、私の・私達の「人類の真の父母」であることを頭では分かっている、あまり実感がありません。

そんな子供達をどのようにしたら孝子孝女として心情的に御父母様の前に立たせてあげることが出来るだろうか。そればかりを祈り求める日々でした。

120 人の子供達がいれば、内外の基準も様々です。直接お会いしたこともない御父母様にお捧げしたい

一心で練習に励む子もいれば、精誠を尽くす姉妹の姿を見て、よく分からない中でも必死について来る子もいました。

実際、「お母様のお顔を見て涙があふれてきました」「お母様にただただ幸せになってほしい一心で捧げました」「あの方がお母様？」など、子供達の感じ方は様々。「御父母様と初めてお会いしても、私の親なんだという実感が持てなくて残念でした」と正直に感想を書いた子もいました。

後日、私は全体集合の場で「残念に思う必要はないです！なぜなら、皆さんは真の父母に出会ったのだから!」と伝えしました。

公演当日、「孝心」を歌いながらワシップダンスを踊る子供達の前に御父母様がいらっしゃいました。日本の代表としていただいた恵みを留めることなく、全世界に広げていきます。

ダンスを踊りながら幸せ一杯に

南東京教区渋谷教会 中学 1 年生 江原怜那

本番の時、舞台前にお母様が座っていらっしゃって、とても緊張しました。笑顔になれるか心配でしたが、音楽と共に自然に笑顔になりました。お母様のほうを少し見た時、「一生懸命お捧げしなきゃ!」という強い思いが出て来て、それと共に笑顔がどんどん出て来ました。終わってからお母様が拍手してくださる姿を見て、とても嬉しい気持ちで胸がいっぱいになりました。ワシップダンスを踊っている間ずっと幸せでした。お母様はやっぱり私達のお母さんであり、人類のお母様だということを改めて実感しました。

心で感じた本当の親との出会い

南東京教区渋谷教会 中学 3 年生 岩崎好芳

ワシップダンスを踊りながら本当に「お父様!」という気持ちが溢れ出てきました。ダンスの振りは、緊張していたこともあって自分がどう踊ったのかあまり覚えていません。ただただ目の前にいらっしゃる御父母様を見ながら、ただ「お父様、お母様」という思いだけが出てきたのを覚えています。本当の親と会った瞬間、何とも言えない思いが沸き、ただただ涙が溢れました。御父母様と私の関係は心で感じる世界なんだと思いました。本当に感謝です。

家庭連合時代において新たな共同体文化を

3 万双家庭会総会を開催



① 3 万双家庭会総会の参加者
② 挨拶する安榮燮 3 万双家庭会長
③ しっとりとした音色を響かせる AVANTI の 2 人

8 月 27 日、2016 年度の 3 万双家庭会総会が東京・渋谷の松濤本部礼拝堂で開催され、天候が悪い中にも関わらず 140 人の会員が集まりました。総会の模様はインターネットを通じて全国 40 力所に中継されました。

総会は、代表報告祈祷、安榮燮 3 万双家庭会長の挨拶に続き、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長がメッセージを語りました。

その中で宋総会長は、「(8 月に行われた) 真のお父様の聖和 4 周年記念行事において、真のお母様が“孝情”文化の出発を見せてくださいました。私たちはその希望の中で生きているのです」と強調。

また、記念行事においてお母様が精誠を尽くされる様子を証した上で、「家庭連合時代の新しい 3 万双家庭となり、天の父母様の心情・愛を中心として変化していかなければなりません。本部も現場の教会も新しく変わり、皆さんが中心となって共同体文化を築いていきましょう」と訴えました。

昼食をはさんでエンターテインメントが行われ、

AVANTI の二人のしっとりとした演奏で会場が和む中、第 2 部がスタートしました。

最初に、この 1 年間の活動内容と今後の活動に関する報告のほか、7 月 19 日に 2 地区で行われた交流会の様子などが紹介。

引き続き、家庭教育局祝福教育部の渡邊永二次長が二世祝福の推薦基準や二世を取り巻く環境について身近な話題を中心にわかりやすく解説。父母マッチングについてもコンパクトにまとめて説明しました。

多数の豪華賞品が準備された抽選会で盛り上がった後、家庭交流の時間となりました。参加者は、家族写真を見せてそれぞれの家庭を紹介したりしていました。

最後に安榮燮会長が総括として、二世の祝福を中心とした家庭交流の心構えを語った上で、祝福家庭同士の交流をさらに促進していく重要性を述べました。

総会は、石川祐司金澤家庭教会長のリードで億万歳四唱をもって盛況のうちに幕を閉じました。

西埼玉教区で天宙既成祝福式 & オープン礼拝

9 月 4 日午前、西埼玉教区主催で「天地人真の父母天宙既成祝福式」とオープン礼拝を兼ねた「天一国の希望 SUNDAY SERVICE & BLESSING」を埼玉県内のホテルで行われ、既成祝福 10 組、独身祝福 15 組の計 25 組が参加。付き添いや礼拝参加者と合わせて 522 人が集まりました。今回は全教会から祝福式への参加があり、心情的で家族的な雰囲気にも包まれた式典となりました。

式典は、代表報告祈祷と聖歌隊による美しい合唱の後、主礼の五十嵐政彦第 3 地区長ご夫妻が入場。

五十嵐地区長は主礼の辞で、「祝福式は、自分中心の結婚ではなく、神様中心の結婚です。お互いに補い合ってこれなかった過去があったとしても、きょう全てを許して出発しましょ

う!」と力強く語りました。

聖水儀式、聖婚問答の後、代表のカップルが登壇して礼物交換。聖婚宣布の後、五十嵐地区長ご夫妻が祝福を行いました。

祝歌として聖歌隊の歌やバンド演奏が披露された後、趙康来熊谷家庭教会長のリードで億万歳を行い、式典は幕を閉じました。午後からは祝賀会が開かれ、新しい祝福家庭の門出を祝いました。



西埼玉教区の祝福式 & オープン礼拝

夏祭りで地域と交流

— 熊本阿蘇、北東京赤羽家庭教会 —

8 月 28 日、熊本地震後の 4 月下旬に炊き出しや支援物資の無料配布を行った熊本市の阿蘇家庭教会で、復興イベント夏祭りが開催され、新規のゲスト 40 人を含む約 250 人が集まりました。

会場では、焼きそばやかき氷、綿菓子などの出店のほか、輪投げや輪投げ射的、ヨーヨー釣りが準備され、祭りの雰囲気を演出。また、天父報恩太鼓やジャグリングの出し物もありました。

案内のチラシを見て会場に足を運んだ地域の人々は、「支援物資配布の時に来たことがあります。その時は大変助かりました」「炊き出しの時に来たことがあるので、今回も来てみました」などと話していました。小さい子供連れの家族も多く、色々なゲームをして楽しんでいました。

同日、北東京教区赤羽家庭教会では「聖和 4 周年

赤羽夏祭り」が開催されました。日ごろ礼拝後に壮年部が地域の清掃活動を行ってきた土台があり、近所に抽選券付きのチラシを配布したところ、近隣の住人や通行人を含めて約 200 人が参加しました。

受付ではハッピー姿の二世が、オリジナルのうちわを配りながら来場者を歓迎し、近隣地域と教会がひとつになったお祭りとなりました。



熊本阿蘇家庭教会の夏祭り